国立大学法人大阪大学の中期目標

平成30年3月26日 文部科学大臣提示

国立大学法人大阪大学の中期目標

(前文) 大学の基本的な目標

世界には、民族、宗教、言語、制度、習慣などの多様性が存在する。この多様性は、革新的なイノベーションの創出や心豊かな人類社会の営みにとって不可欠である一方で、時として、グローバル社会の健全な発展にとっての障壁にもなりうる。21世紀の人類は、こうした様々な要因が複雑に絡み合って噴出する社会的問題を解決するとともに、最先端の科学や技術開発がもたらす恩恵等を通して、人間性豊かな社会を構築しなければならない。そして、それを成し遂げるためには、学問の府である大学が、学問を介して多様な知の協奏と共創の場になることが必須である。未来を切り拓く原動力はここから生まれる。

こうした背景を踏まえ、大阪大学は、その源流である懐徳堂と適塾の精神を継承し、大阪・関西の地から世界に開かれ、世界に貢献する大学として、世界各地より集まる優れた頭脳と才能が互いに切磋琢磨し、その潜在力を最大限に引き出しうる充実した教育研究環境を提供する。新たに構築する教育研究プラットフォームでは、異分野融合による新学術領域の創成や専門分野を超えた能動的な知の統合学修を通じて、様々な要因が複雑に絡み合っている地球規模の社会的問題を独創的なアプローチで解決するとともに、最先端の科学や技術の発展を推進し、人間性豊かな社会の創造に大きく貢献する人材を輩出する。その結果として、グローバル社会の期待に応える世界屈指の研究型総合大学への進化を目指す。

大阪大学は、学問の真髄を極める高いレベルの教育研究を追求するとともに、学問を介して、知識、技能、経験、立場などの多様性を有する人々の相互理解と協働によるコラボレーティブ・イノベーションを推進する。また、「地域に生き世界に伸びる」をモットーとする本学は、国立大学法人としての社会的な責任を自覚し、さらに大阪の市民の力によって生まれた創建の経緯を踏まえつつ、国内外の市民や行政、経済、産業界などの幅広いパートナーと手を携え、社会とともに歩む大学でありたい。さらに本学は、持続的に発展し活力ある社会を創出するための変革を担う人材の育成や新たな価値の創成といった、グローバル社会が求める負託に応えていくものである。

◆ 中期目標の期間及び教育研究組織

1 中期目標の期間

平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。

2 教育研究組織

この中期目標を達成するため、別表1に記載する学部及び研究科を、別表2に記載する共同利用・共同研究拠点及び教育関係共同利用拠点を置く。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

1. コラボレーティブ・イノベーションを推進するため、学問の真髄を極める能力である高度な専門知識と豊かな教養、高いデザイン力を有し、社会を牽引することができる「知」を備えた人材を育成する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

2. 学問を介した多様な知の協奏と共創を実現するための教育研究拠点として教育の質向

上を恒常的に行う体制を整え、教育成果を有効にあげられる組織の構築と教育力の強化に取り組むとともに、グローバルな教育交流の実現に向けた教育体制の国際標準化を進める。

(3) 学生への支援に関する目標

3. 学生の生活・学修・キャリア形成を支援する取組を充実させ、安心して意欲的な学修に取り組むことができる環境を整備する。

(4) 入学者選抜の改善に関する目標

4. 多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を国内外から選抜するため、入試方法の多様化と多面的・総合的入試のための体制整備に取り組む。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

5. 社会変革をもたらすイノベーションの推進や心豊かで平和な社会の実現のため、学内の多様性を強みとした異分野融合による新たな学術領域の創造、学術研究の推進により、学問の真髄を極める基礎・基盤研究を振興する。

(2) 研究実施体制等に関する目標

6. 多様な知の協奏と共創を実現することを目的とした世界屈指の研究型総合大学への進化を可能とするグローバルかつ闊達な研究環境を整備する。
7. 附置研究所・センター等における共同利用・共同研究を通じて大学の研究力向上に寄与するとともに、附置研究所・センター等の機能を強化する。

3 その他の目標

(1) 社会連携や社会貢献に関する目標

8. 社会ニーズを先取りしたオープンイノベーションを創出すべく、産学官の戦略的かつ包括的な連携を強化・推進し、本学の研究成果を国内外に広く還元することで、グローバル社会が求める責務に応える。
9. 大学知の循環を活発化させるため、大学の知的資源を広く社会に発信し、社会との連携・協働による社会貢献活動を行う。

(2) グローバル化に関する目標

10. 徹底した「国際化」を全学的に断行することで国際通用性を高め、多様な知の協奏と共創を具現化する世界展開力を強化する。

(3) 産業競争力強化法の規定に基づく出資等に関する目標

11. 大学によるイノベーション活動の世界標準化のため、産業競争力強化法に基づく認定特定研究成果活用支援事業者に対して出資並びに人的及び技術的援助等の業務を行うことにより、大学における技術に関する研究成果の事業化及び教育研究活動を活性化させる。

(4) 附属病院に関する目標

12. 先進医療開発病院、高度機能病院及び地域中核病院としての機能を向上させる。

13. 教育・研修機関としての大学病院の使命を果たす。
14. 適切な運営基盤を構築し、大学病院の診療の活性化を推進する。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

15. 総長のリーダーシップのもと、機動的・弾力的な組織運営を行い、学内外の意見を適切に反映しつつ、大学が直面する諸課題に迅速に対応する。その過程においては、本学構成員の合意形成と透明性の確保を旨とする経営戦略に基づくガバナンスを確立する。
16. 大学の多様な活動を支えるため、多様な人材の活用、教職員人事の活性化と人事制度の柔軟な運用を推進する。

2 教育研究組織の見直しに関する目標

17. 教育研究力の活性化に向けた組織の在り方を恒常的に見直し、効果的かつ未来志向な組織整備を進める。

3 事務等の効率化・合理化に関する目標

18. 高度な教育研究をサポートする効率的・効果的な事務体制の確立に向けた取組を進める。

III 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

19. 外部資金を獲得しつつ、大学独自の基金制度により自己収入を増加させる。

2 経費の抑制に関する目標

20. 健全な財務内容を維持するため、経費の抑制とコストの削減を行う。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

21. リスクに留意しながら資産と資金の有効な運用を行う。

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

22. 教育、研究、社会貢献及び管理運営に関する大学の諸活動を点検・評価し、その結果を組織運営の改善につなげる。

2 広報に関する目標

23. 社会と向き合う戦略的な広報を展開して、大阪大学の認知度を国内外で高める。

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

24. 地球環境に配慮し地域・社会と共生する安心・安全なキャンパスを整えつつ、教育研究における世界最高水準のグローバル・イノベーション拠点の実現を目指す。

2 リスク管理に関する目標

25. 全学的なリスク管理体制のもと、危機管理意識の高い教育研究環境を構築する。

3 法令遵守等に関する目標

26. 国民からの期待に応え、信頼される大学として、社会の要請や課題に対応しつつ、法令を遵守し、適正な大学運営を行う。

別表 1 (学部、研究科等)

学 部	文学部 人間科学部 外国語学部 法学部 経済学部 理学部 医学部 歯学部 薬学部 工学部 基礎工学部
研 究 科	文学研究科 人間科学研究科 法学研究科 経済学研究科 理学研究科 医学系研究科 歯学研究科 薬学研究科 工学研究科 基礎工学研究科 言語文化研究科 国際公共政策研究科 情報科学研究科 生命機能研究科 高等司法研究科 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科

別表 2 (共同利用・共同研究拠点、教育関係共同利用拠点)

<p>【共同利用・共同研究拠点】</p> <p>微生物病研究所 産業科学研究所 蛋白質研究所 社会経済研究所 接合科学研究所 レーザー科学研究所 核物理研究センター</p>
--

サイバーメディアセンター

【教育関係共同利用拠点】

日本語・日本文化教育研修共同利用拠点（大阪大学日本語日本文化教育センター）